

平成25年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000143	事業の開始年月日	平成22年6月1日	
		指定年月日	平成22年6月1日	
法人名	株式会社 日本アメリティライフ協会			
事業所名	花物語 やまと西			
所在地	( 〒242-0006 ) 神奈川県大和市南林間9-1-7			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
定員等	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	9名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果 市町村受理日		
ユニット数		ユニット		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも事業所の理念を念頭に置き利用者の方に楽しみやメリハリのある生活を感じていただけるよう地域の行事の参加、ボランティア、外出、外食等を積極的に行っています。そして、その方の持っている力を引き出し、在宅生活を長く続ける事ができるよう支援すると共に、ご家族の介護負担の軽減にも寄与していきます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年11月27日	評価機関 評価決定日	平成26年5月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、小田急江ノ島線の南林間駅からバスで5分「十一条」バス停で下車し、徒歩で10分程の場所にある。静かな住宅地の中にあり、同法人のグループホームが併設された木造2階の建物で目の前は広い駐車場になっている。正面玄関にはスロープがあり、車椅子の利用者も移動が便利である。スロープに沿ってプランターに季節の花が植えられ、ぶどう棚がある。

**【個々に合わせた支援に意欲的に取り組む職員】**  
毎日、体操やレクレーションを取り入れ、利用者がメリハリのある生活を送れるよう支援をしている。開設から3年経ち、利用者の介護度も変わってきているため、一律なプログラムではなく、その人の現有能力に合わせた個別対応を工夫している。職員は自ら積極的に調べ勉強し、その人に合うレクリエーションなどを考えるなど向上心が高く、日々の支援に意欲的に取り組んでいる。

**【多彩な地域との交流】**  
地域との関わりは多彩で、利用者は様々な形で参加している。地域のお祭りやドンド焼きなどの恒例行事、地域高齢者のおはなしサロンにも参加している。自治会長の関与する赤十字ボランティアが催すレクレーションなどをはじめ、退職した職員や職員の友人、利用者家族などボランティアの来訪は多岐にわたり、利用者との交流している。近隣農家の協力があり、芋掘りやトウモロコシ採り、また利用者の梨園では梨狩りなどを季節ごとに楽しんでいる。近くの保育園との定期的な交流は開設当初から行われ、利用者の楽しみとなっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 やまと西
ユニット名	小規模多機能型居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	実施状況
次のステップに向けて期待したい内容				
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした事業所作りを基本に、利用者の方がホッと出来る場所であり、気兼ねなく自由で気楽にいられる空間作りをモットーにしています。	事業所理念は開設時に職員が話し合い作成した。「花物語やまと西」としての併設のグループホームと共通理念である。職員は毎日の朝礼で法人の年度目標と併せて唱和している。入職時には研修で説明している。利用者にとって「笑顔が絶えない安心できる場所」となるよう心掛けている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内の催しへの参加や、近隣の幼稚園の園児との交流や事業所主催の健康祭りで地域の方に参加していただいたり交流を図っている。	自治会に加入し、お祭りや地域の高齢者サロンなどに参加している。事業所の行事として健康祭りを開催し、近隣の方やボランティア、家族等を招き、血管年齢や骨密度などの測定のイベントを行った。利用者は季節ごとに近隣の農家で芋掘りや梨狩りを楽しんだり、保育園児とは定期的に交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設見学会などを通じて事業所の認知症の方への支援についてご理解を頂けるよう努めている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月ごとに開催し、事業所からの報告だけでなく、参加者からの意見や要望などをいただくように努めている。	運営推進会議は2か月毎に併設のグループホームと合同で開催している。委員は自治会長・民生委員・建物オーナー・利用者2～3名・家族・市の職員と地域包括支援センター職員は交互に出席している。活動状況報告、情報交換の他に、介護保険や防災、感染症などについて助言を得たり意見交換したりしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、約2ヶ月に1度大和市内の小規模多機能事業所の連絡会に参加頂き、情報・意見交換を行ったり、定期的に利用者受け入れ状況報告を行ったり、運営推進会議に参加頂いた際に事業所の現状報告を行うなどの連携をとり、事業所の取組みについて理解して頂けるよう努めている。	大和市の担当職員とは2か月毎の「小規模多機能事業所連絡会」で他事業所とともに情報交換をし連携している。市が主催する防災や救急救命の研修には職員が参加している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でのミーティングの際に研修を行い、職員間で理解を深めるように取り組んでいる。また、外部研修に参加し、社内研修にも取り入れるようにしている。	マニュアルに基づき年1回、内部研修を実施している。外部研修に参加した時は、会議で内容を報告して職員間で共有している。職員が気づかず発したスピーチロックなどは、その場で注意している。正面玄関は安全上、施錠しているが、利用者が外に出たい様子には気をつけ、職員が付き添って一緒に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内でのミーティングの際に研修を行い、職員間で理解を深めるように取り組んでいる。また、外部研修に参加し、社内研修にも取り入れるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度の利用を予定している方が小規模多機能事業所におられたため、会議の場で職員間でも話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項の説明を十分に行い、ご理解いただいた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施を行ったり、連絡ノートの記載や訪問・送迎時、運営推進会議などでご要望、ご意見を伺い、ミーティングなどで検討し、頂いたご意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。	日頃から、訪問時や送迎時、連絡ノートなどで意見を聞き、家族から出た意見や要望は会議で話し合い職員間で共有している。また年1回、家族アンケートを実施している。夕食を食べてから帰る方が増え、夕食時間を遅くしてほしい、外出イベントを増やしてなどの要望があり、できるものは改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個人面談（随時）の機会を設け、個々の職員の意見や提案を反映させることで、事業所内の風通しが良くなるよう心がけている。	毎月のミーティングや定期的な個人面談で意見を聞いている。今年度から職員向けの「気づきボックス」を設置し、些細な意見でも出しやすいよう努めている。燃料代の節約についての提案などがあり、ミーティングで話し合い実行した事例がある。フロアの飾りつけはフロアリーダーを中心に話し合っていて決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は個別ヒアリングなどを通し、各職員の勤務及び業務状況の把握に努めている。業務や職場環境、処遇について困っていることがあれば、随時個別面接を行い、改善につなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援制度や内部研修はもとより、外部研修についても、受講する機会を阻害しないよう勤務ローテーションへの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大和市の小規模多機能事業所連絡会に参加し、管理者・職員が地域の同業者と交流を図る機会を設けている。他事業所との意見交換を通じ、サービス向上のための取組みに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、利用前に当事業所がどのようなところなのかをご見学いただき、その際あるいはご自宅訪問時にご本人のご要望等に耳を傾けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの率直な意見に耳を傾けられるよう、時間をかけて悩みや要望等を伺うよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族にとって今何が必要なのかを見極め、地域包括支援センター等とも連携し、適切な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のご要望に耳を傾けつつ、共に支えあえる関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートや訪問・送迎時など、利用者ご本人の情報を共有し、一方通行にならないよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にもご協力いただき、利用者の生活圏域での馴染みの関係を維持できるよう支援している。	アセスメントや生活歴などから利用者の馴染みの場所などは把握している。買い物に同行したり、送迎時に馴染みの場所に立ち寄りしたりしている。以前から通っている教会へ出かける方には支援をしている。知人の来訪にはお茶を出して歓迎している。自治会の高齢者サロンと社会福祉協議会のひまわりサロンがあり、なるべく多く参加できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の中で定期的に皆さんが顔をあわせているので、自然と顔見知りになり、気の合った利用者同士会話が弾んだり、よい関係性が保たれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、ご家族からのご相談に対しては、きめ細かい対応が出来るよう心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者から随時お話をお聞きするとともに、お聞きしたことに対して、フロアミーティングの場などで把握・検討を行っている。	利用者の意向や思いは、訪問時や送迎時、あるいは日頃の生活の中で職員が聞き取るようにしている。家族からの話しを参考にする場合もある。どのように過ごしたいかなど、意向の把握が困難な方は表情や仕草などをよく観察することで、本人の思いに合わせた支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や、生活環境など職員間で共有し把握できるよう、利用者様の個人ファイル等を手元に置き活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録への確実な記録と、申送りノートなどの活用により、日々の暮らしの中での必要な情報の共有を全職員間で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人やご家族からの意見をお聞きし介護職員、看護職員、介護支援専門員で話し合い、介護計画に反映できるよう話し合いを行っている。	ケアマネジャー、看護師、職員がケアカンファレンスで情報交換してモニタリングをし、医師の意見や家族の要望も入れて介護計画書を作成している。これをベースに支援項目ごとの実施方法や留意点をまとめた独自の小規模介護計画書を作成している。通常は6か月ごと、変化がある時はその都度見直しをしている。個別記録にはプランの実施目標を番号化し、職員それぞれが介護計画を意識した記録が出来るように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録に記入したことや、日々のケアによる気づきをフロアミーティングの席で共有し、個別ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いサービスについては、一定の時間にとらわれず、ご本人やご家族のご要望に応じ、利用時間に柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会、近隣の幼稚園との連携を図るよう進めている。また、施設での行事の際に、地域ボランティアの方に参加頂き、交流・活性化を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を把握し、必要時に連携できるようにしている。	利用者は、それぞれのかかりつけ医を利用し、基本的には家族が付添い受診している。医療情報は連絡帳などで報告し、事業所は支援経過表に記入して共有している。泊まり利用時や緊急時には、かかりつけ医または協力医に相談や対応が可能である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員、介護職員との連携は取れている。確認、相談があるときは、休みの時でも必要に応じて電話連絡をして確認をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中も、ご家族や医療機関相談員との連絡や相談を行うよう心がけ、退院時にはスムーズに受け入れが出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合のお話をし、状態の変化が見られたときには話し合いの場を設けている。また、急変時の対応方法や、受診・往診対応について、ご家族やかかりつけ医と連絡を取り方針の共有をしている。職員の研修も行っている。	重度化や終末期の対応については、利用者の身心状況の変化に応じて関係者が話し合いを重ね、できる限りの支援をしていく方針である。契約時に「利用者の急変時や重度化した場合の対応に係る指針」により、口頭で説明している。職員にも急変時・重度化対応の指針について研修で説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法については、フロアミーティングの際に研修を行い、職員への周知を行っている。また、外部研修にも参加し、対応力の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所として大地震や夜間を想定しての避難訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議において、地域住民への避難訓練の参加を求めている。施設内倉庫には3日分の水・食料等の備蓄を行っている。	年2回、併設するグループホームと合同で、夜間想定避難訓練を実施している。うち1回は消防署が立ち会いで、もう1回は自主訓練である。隣接する建物オーナーが参加している。近隣住民にも事前に声かけはしたが、参加には至らなかった。非常用の食料・水を3日分と備品類を備蓄している。	事業所は運営推進会議や地域の集まりなどで近隣の方に呼びかけ、事業所の避難訓練に参加してもらえるよう努力しています。今後も引き続き、参加しやすい日程を工夫するなどの様々な方法を検討し、地域住民の参加が実現することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという認識を持って接しており、接遇について失礼の無いよう心がけ、言葉遣いには特に気をかけている。	職員は接遇について研修で学んでいる。「人生の先輩」との理念の下に人格の尊重やプライバシーに配慮している。職員の気になる言動や行動があれば、管理者はその場で直接指導をしている。個人情報を含む書類は鍵のある書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から申し出があることに関しては、職員の押し付けではなく、ご自身の意思を尊重し、出来得る限り自己決定できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員の時間割ではなく、利用者の生活リズムや生活パターンに合わせた、押し付けではない支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用（髪のカット、顔そり、髭剃り）をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事については献立と食材を外部調達して、調理を職員が行い、バランスの良い食事提供を心がけている。月に数回、利用者とホットプレートで食事を作ったり、外食や食事会を楽しんでいる。	業者から配達される献立付の食材を職員が調理している。利用者は下ごしらえや食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。外食や出前の他に、毎月の「おやつレク」などでは、利用者と職員で献立を決めて料理作りを一緒に楽しんでいる。事業所の支援により、自宅では食事摂取量が少なかった人の食事量が改善されたケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に関しては、利用者一人ひとりの状態を把握し、適切な提供が出来るよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員による声掛けや介助にて利用者の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のご状態や排泄の習慣を把握し、自力の排泄が出来るよう支援している。ご自分から言えない方は食前、食後、時間を見て声をかけて、トイレでの排泄を行っている。失敗の多い方については、ミーティング等で話し合い、改善を図っている。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、定時での声かけや誘導をしてトイレでの排泄を支援している。トイレまでの歩行やズボンの上げ下ろしなどは極力自力でやってもらい、本人の機能が維持できるよう努めている。また改善された状態を自宅でも維持できるよう家族とも情報共有し、支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に偏りが無いよう注意し、乳製品を取り入れ、事業所内外での散歩や体操など身体を動かしていただくよう心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本人の意向や、ご家族からご家庭での状況をお聞きし、当日の身体状況に合わせた入浴の支援を行っています。入浴を楽しんでいただけるよう、入浴剤を使用したり、季節のものを湯船に入れて楽しんでいただいている。	入浴は週に2~3回入れるように支援している。状態によりリフト浴を利用する方もいる。入浴したくない方には、声かけする職員を代えたり、「入浴」以外の言葉を使うなどして対応している。季節のしょうぶ湯やゆず湯、時には気分転換になるよう入浴剤などを使用し、入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活環境にも配慮し、宿泊の際は、ご希望により和室のご利用もお勧めしている。日中も、随時休息できるよう静養室を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自宅からお持ちいただくお薬については、看護職員を中心に取扱いには十分注意し、服薬事故の無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好みや趣味嗜好などを把握し、その方が力を発揮していただけるような役割を持っていただくよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食など、その日の気分で外出したり、季節ごとに、季節感を味わうことが出来る外出先を選び、戸外に出かけられるよう配慮している。	天気の良い日には車椅子の方も一緒に、15分～20分程度の散歩に行っている。車で引地台公園やふれあいの森、相模原公園に、おやつを持って行くこともある。外出行事としては花見や初詣などがある。気候や本人の体力に合わせ、玄関前にテーブルを出して外気浴や日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問時に近くの商店で買い物を楽しむことが出来るよう付き添いの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話の利用や手紙のやり取りは、ご本人のご希望やご家族のご意向に即して出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、ホッとできる空間作りと南向きの窓から差し込む光で、明るい空間作りにも配慮しています。外や玄関に花を飾り、ダイルームには利用者様の作品を飾っている。	玄関前にはぶどう棚があり「花物語」の名の通り、スロープに沿って季節の花が植えられ、室内各所に生花が飾られている。訪問時、リビングの壁には利用者で作ったクリスマスの大型貼り絵作品などが飾られていた。階段の壁にある利用者の共同作品「ロールピクチャー」や事業所の軒下に巣作りした燕の写真などは、来訪者や利用者との話題作りに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	疲れて横になりたい時にはベッドを利用したり、一人になりたいときには、和室・静養室で過ごしていただいたり、その時々々の居場所を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室のうち、2室は和室を設け、ご本人のご希望にあわせ利用できるよう配慮している。宿泊の時は、同じ部屋が利用できるよう配慮している。	宿泊室は1階に和室が2つと洋室2つ、2階に洋室5つの計9室がある。部屋にはベッド、収納タンス、エアコン、センサーマット、照明器具、カーテンなどが備え付けてある。利用者は着替え、洗面道具、置き時計などを持参する。なるべく同じ部屋が使えるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、また、宿泊の際には宿泊室の表示について、利用者にはわかりやすく表示している。		

# 目標達成計画

事業所名

小規模の多機能  
花物語やまと西

作成日

平成26年6月19日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議や地域の方など、近隣の方には避難訓練に参加してもらえない。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議等で一斉に避難訓練を行う。	なるべく地域の方々に参加して頂けるよう、チラシを配布するなどして呼びかける。	平成26年6月19日～31日
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。